

目的 各地の祭礼には五穀豊穰や家内安全、商売繁盛、安産等を祈願するもの、また、山岳信仰等に見られる神仏そのものへの帰依、みそぎ等に見られる心身の清浄等を祈るものなどがあり古くから伝承されてきた。岐阜県は比較的平野や河川の多い美濃と山岳地帯の飛驒に大別され、それをさらに民族的な面から美濃は5地域に、飛驒は4地域に分けられていて、それぞれの地域に関係する祭礼が多い。これら数多い祭礼の中には地域独特の祭礼もみられ、それに伴う祭礼衣裳にも様々な特長がみられる。これら衣裳について構成意匠などの考察を行う。今回はひんここ祭について報告する。

方法 美濃市大矢田2596 大矢田神社において祭礼日(4月14日、15日、11月23日)および他日に祭礼衣裳等について調査した。

結果 大矢田神社の例祭通称ひんここ祭は、原始的な杖頭人形による呪芸が行われることで評価を受けている。ひんここ人形は棒人形とからく 人形の2種があり、前者をひんここと呼んでおり棒人形である。祢宜殿は紙の金色縁取 風折烏帽子、木瓜紋付白地帷子紺袴を着用、農民は唐草模様の上衣に茶筋の袴を着る。からくり人形の狸々はこの祭りの一番大切な神人形であり、櫛稲田姫命を表わしている。現行の狸々収納箱が明暦3年(1657)となってる。衣裳は下着が袷で表地が黄丹色の絹、裏地は白麻仕立て、中に金襴の肩衣を着用している。金襴の平金糸の状態等からこの2枚は箱書付けと同様の年代のものとして推定される。その上に朱紅色の上着と袴を着用している。